

# 平成 23 年度四国ブロッククラブミーティング 2011 開催報告

日時： [第 1 日目] 平成 23 年 11 月 19 日（土） 13:00～17:00

[第 2 日目] 平成 23 年 11 月 20 日（日） 10:00～17:00

会場：「とくぎんとモニプラザ」

内容： [1 日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) 事例発表
- (3) 活動報告
- (4) グループディスカッション
- (5) まとめ

[2 日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) スポーツ交流
- (3) 基調講演
- (4) 事例発表
- (5) グループディスカッション
- (6) まとめ

## 【概要】

1日目の概要について、徳島県東みよし町総合型地域スポーツクラブ「おおくすクラブ」が能田地方企画班員のコーディネートにより事例発表を行った。おおくすクラブは人口15,000人の東みよし町教育委員会と連携し、町より補助金を得て活動している会員数300人のクラブである。運



営費は自立支援・クラブマネージャー設置支援助成金540万円、東みよし町補助金60万円、会費収入200万円である。運営委員会は2ヶ月に1回開催。入学説明会や入園説明会でクラブのプレゼンを行うなどホームページ、おおくすクラブ通信の発行、広報誌掲載等によって地域住民への十分な広報を行い、特に学校・地域・クラブの連携を密にして活動をしている旨が述べられた。

創設クラブからの質問として四国大学との連携の発端や経緯、創設にあたっての既存クラブ、体育指導員との関係及び問題点、財源の多くを助成金に頼っており自己財源率に関する今後の問題等の質問や意見が飛び交った。

また、四国ブロックでは平成22年6月の高知県で開かれたクラブミーティングより、創設2年目のクラブは、クラブミーティングで活動報告することを地方企画班会議で取り決めている。今回のクラブミーティングでは「土成Uクラブ設立準備委員会」「海陽町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」「つるぎスポーツクラブ設立準備委員会」「伊予地域総合型郡中スポレククラブ」が活動報告を行った。

「土成Uクラブ設立準備委員会」は、人口約8,000人の町を対象に土成農業者トレーニングセンターを拠点として、地元ケーブルテレビを使っての広報活動など特色を作りながらニュースポーツを中心に活動



を展開している。



「海陽町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」は人口10,904人の町で7クラスの太極拳、3B体操等の体験教室を実施、クラブ名やロゴマークなどを募集するなどの特色ある広報活動を行うとともに商工祭へ参加し、他の団体とのコラボもやっている。

「つるぎスポーツクラブ設立準備委員会」は、人口10,953人の町で59人の運営委員を中心に卓球教室や太極拳教室、ソフトバレー教室等を実施、会員数確保のための広報活動では啓発チラシや防災無線を利用した募集も行っている。



「伊予地域総合型郡中スポレククラブ」は、母親たちが子どもの成長に問題意識を持って取り組んでいるクラブである。陸上やカーヌー、スケートなど多種にわたるジュニア教室とフィットネスを中心としたママ倶楽部を基盤として活動を行っている。どのクラブもそれぞれの地域にあった特色を生かし、それぞれの問題点を明確にして来春の設立総会に向けて奮闘している旨が報告された。

た。

2日目の基調講演は中央企画班長の松田雅彦氏が「今後10年間の総合型地域スポーツクラブが目指すべき方向性と取り組み」をテーマに講演された。総合型地域スポーツクラブは、新しい公共としての仕組みであり、市民推進運動としてのクラブであるとともに新しい公共を支える組織としてのクラブであること。この新しい仕組みの特徴と生涯スポーツ、地域づくりの関係から今後クラブが取り組まなければならない活動の方向性と取り組み方についてご講義いただいた。



「おらがクラブ自慢」は各県で選出されたクラブが「クラブ自慢」することを平成21年度から地方企画班会議で取り決めている。今回は、アスリートのサッカーチームが主となって設立し、サッカー協会と連携した総合型クラブの「徳島スポーツクラブカバロス(徳島)」、年間200回の健康づくり教室を実施している「NPO法人飯山スポーツクラブ(香川)」、障がい者のスポーツ参加機会を多く提供している「高知チャレンジドクラブ(高知)」、相撲が盛んな農林、畜産業中心の町で多彩なスポーツ活動に挑戦している「のむらスポーツクラブ(愛媛)」が自慢報告をした。各クラブともに地域に密着し、地域性を発揮しており、それぞれが身の丈にあった独自の活動を展開していることが発表された。

1日目、2日目のディスカッションについては、発表したクラブの内容をもとに総合型クラブが持つ共通の問題点を討議した。

#### 【討議内容】

##### [1日目]

##### 【現在問題になっていることについて】

会員集めに関することとして、教室だけでは、会員確保に限界がある問題、そのためにイベントによる方法や色々な視点のアプローチを考えなくてはいけなくなる問題や地域住民への認知度の問題。さらに運営費については、補助金がなくなったときの自主財源確保が問題で補助金がある

間に、運営面、経営面をどれだけ整えられるかが決めてであるという意見等が出されて討議が行われた。創設時点で教室やイベントの開催を多く行いながら着実な会員確保が重要であり、会員数を増やすための徹底した広報活動やクラブの活動内容の充実を図る努力、指導者を確保する努力が大切。補助金の使い方により今後のクラブ運営が形作られる等の意見が交わされた。

【クラブとして悩んでいることについて】

クラブの事務局が公的な建物の中にある若しくは公的な機関と連携した形で置かれると地域社会における信頼度が高くなり、会員確保に大きくつながるが、現在は個人宅の一室で行っている状態である。どのようにすれば公的なイメージを作ることができるかという悩みについては、競技団体と協力して事務局を構えたクラブや自分でクラブハウスを建てたクラブ等様々であるが、教委関係に置くことが自立する上でよいかどうか疑問もある。高知県の場合はクラブの立ち上げに教育委員会が絡んでおり、長く活動できるクラブを考えると行政との連携は不可欠である等の意見が交わされた。

【上手くいっていることについて】

群中スポレククラブの「ママクラブ」は、子育ての相談ができ、体操もできるサークル形式で行っており、月会費300円で上手くいっている。指導者を公務員等にお願いし、謝金の発生をできるだけ押さえているので月会費1,000円で十分に運営できている。海陽町総合型スポーツクラブの健康ダイエット教室は、広域スポーツセンターや徳島大学の先生と連携して健康運動指導士が指導しているが大人気で40名程度の男性を含む人たちが参加している。会費については、月額300円～1,000円というクラブが多いが月額1,000円でも運営ができないというクラブもあり、活動が上手くいくことにより会費も安く上がるという傾向になっている等の意見が出された。

[2日目]

NPO取得と指定管理受託について、指定管理受託を考えるとNPOを取得する方が良いが、それぞれの地域の事情もある。スポーツクラブ飯山は平成19年から2年間指定管理者として地域の体育館を運営し、NPOを取得したクラブである。指定管理を受けるクラブは年々増えているが短い期間の受託からクラブ運営上の安定が図れない。人件費を指定管理委託費に頼るのではなく、自己財源で確保できることが求められる等の意見が出された。

障がい者の教室参加については、参加しているクラブもあれば、参加を確認していないクラブもある。また、障がい者スポーツとして教室を開催しているクラブもあり様々である。課題としては指導者の確保や、参加者の送迎が挙げられる。具体的な解決方法として、指導者については、理学療法士や学生、福祉系の専門学校と連携することが考えられる。初めから協力者となることは難しいので、まずは、参加者として参加していただく。次に参加して興味を持ってもらえたら、サポートスタッフとしてお願いしていく。学生にとっても得ることが多いと思う。移動手段のあるなしは、障がい者にとって活動に大きく影響するので、地域でスポーツ活動ができるシステムが作られることが大切になってくる。そのためにもクラブのチラシに一言「障がいがあっても参加できますよ」と書く。そうすることが、障がい者を受け入れる一歩であり、障がい者のスポーツ参加を促す一歩となる等の意見がだされた。

多様な事業展開については、「地域子どもたちを地域のみんで育てるまちづくり」「だれもが健康で豊かに暮らせるまちづくり」「豊かな人間関係のあるいつまでも住みたいまちづくり」を展開している「のむらスポーツクラブ」の多彩な活動の発表に基づきコミュニティとの関わりが討議された。このクラブは、小中高の一貫指導体制や町民のための「町民体操の日」を設定した活動を目표にしているが、補助金終了後の自主運営について課題を明確にしている。さらなるスポーツ

クラブの認知度を高めるための方策として定期的なイベントの開催、教育委員会との連携、広報誌の作成と配布方法等の意見が交換され、会員確保が自主運営につながり、スポーツを通じたコミュニティの形成になることを確認した。



### 【まとめ】

今回の四国ブロッククラブミーティングは、主たるテーマを「コミュニティとの関連」として計画したものである。1日目、2日目と予定された討議内容について、それぞれ質問や意見が忌憚なく交わされた。参加クラブの関係者はコミュニティとの関係を大切に考えて取り組んでいかなければならないこと、また、自分たちが取り組んでいる活動は自分たちの地域コミュニティにとって重要な社会貢献をしていることの自覚等、7月に開催した合同会議で計画したことが概ね達成できたのではないと思われる。四国ブロックでは創設1年目、2年目のクラブの減少により、次年度のクラブミーティングの企画内容を大幅に見直し、4県の総合型クラブ連絡協議会が四国ブロックとして連携し、活動していかなければならないと考えている。

### <2日目:スポーツ交流の様子>



**風船バレー**



**スポーツマッサージ**



**腰痛予防体操**



**健康体操**



**スポーツ吹き矢**

(報告:四国ブロック地方企画班長 齊藤 栄嗣)